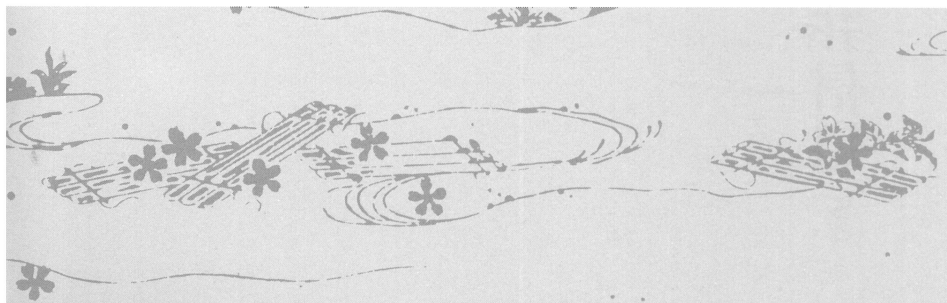


五重相伝のすすめ

目次

はじめに――五重相伝に参加する意義――	1
一、「重」ということ	4
二、五重相伝のはじまりと、現代の五重相伝	8
三、五重とは	
(1) 初重『往生記』	11
(2) 二重『末代念仏授手印』	13
(3) 三重『領解末代念仏授手印抄』	17
(4) 四重『決答授手印疑問抄』	18
(5) 第五重	21
むすび	24



はじめに―五重相伝に参加する意義―

「浄土宗はよろしいですね。五重相伝ごじゅうそうでんというのがあって、参加された人は、必ずお念仏の熱心な信者さんになるそうですね。私たちの方には、その様なことがないので、残念です」と他の宗派の方々がよく言います。

五重相伝え会は私たちの先輩が、遠い昔から残してくれた、伝統のある大変有り難い行事です。これに参加することによって、自らの心の中に浄土宗の信徒であるという、堅い信念を持ち、この世・後の世をかけて、正しい人間の道を歩み、最高の幸せを得ることができるようになるのです。

五重相伝会に参加するようにとのお誘いがあった時、

「今度久し振りにお寺で五重相伝が行われるそうだ。何年目かにある重要な行事ならば、檀信徒の一員として協力しなければならない」

と考える人もあるようですし、

また、

「昔から生涯に一度は必ず参加すべきだといわれてはいるが、現代のような多忙な世の中に、何日間も寺に通いつめて、終日行ぎょうをしたり、法話を聞いたりなんか、とてもできないことだ」

などと思いつながらも、住職さんや世話方さんたちにすすめられて参加される人もあるようです。もちろん、自分から法を求めてこられる人もたくさんいます。

しかしいずれにしても、五重相伝が終わった時に、

「参加させていただいてよかった。有り難かった。このようなことなら、もう少しぐらい長くてもいいですね」

と多くの人が言うようになります。

信仰は、本を読んだり、自分一人で修行をしたりではなかなか身につく

ものではありません。特別な道場で心を同じくする人たちと、お経を読んだり、礼拝らいはいをしたり、法話を聞いたりすることによって、自然に正しい信仰が身についてくるようになるのです。

水を掬きくすれば月手に在り

花を弄もろうすれば香り衣に満つ

両掌で掬すくったわずかな水の中にも月の光は宿つてくるように、私たちの小さな心、わずかな信仰心の心の中にも、仏さまの光は必ず宿っています。花を愛する人には、その花の香りが自然に身に移ってきます。

たとえ数日間であっても、信仰の道場に身をおくことによって、必ず仏のみ心を感じ得るようになるのです。

そしてその数日間が、私たちの人生の中で大きな転換期となる、重大な意味を持つ時となるのです。

一、「重」ということ

「重」という字には二つの意味があります。

一つには重大（重い）ということです。浄土宗では大変重要な行事で、大切な教えが伝えられるのです。またお寺としても、早くとも四、五年、檀信徒の少ないお寺では十年、二十年に一度しか勤められない、重要な行事です。また参加される皆さん方にとって、人生における重大な転換期になる時で、それにより今までとは一味も二味も違った目で見世の中を見ることができるようになるのです。

苦しみから 楽しみの世界へ

悲しみから 喜びの世界へ

闇から 明るみの世界へ

邪よこしまから 正の世界へ